



巻 頭 言

高橋五郎（愛知大学国際中国学研究センター・所長）

「現代中国学電子ジャーナル」は創刊準備号の発刊を経て、今回、本格的・定期的な刊行に向けた創刊号を発刊することができた。収録した論文数は39編、内外の執筆者による現代中国のインナー研究・インター研究両部門にわたる幅広いテーマが取り上げられている。

今次号の主内容は、ICCSが北海道大学東アジアメディア研究センターとの共催で2009年12月に実施した「現代中国の国際的影響力拡大に関する総合的研究」という国際シンポジウムに際して報告者が準備されたフルペーパーである。これを原稿とし、シンポジウムでの議論を経て修正したものを、再度提出して頂いたものである。今回の国際シンポジウムには自由参加者の枠を設けたところ、内外から定員を超える応募があり、議論も非常に活発だった。その“副産物”として、国際シンポジウムのテーマに関連する文字通り国際的な「中国国際影響学会」（仮称）の設立を進めていくことが確認されたことも意義深いことだった。

さて電子ジャーナルの主なよさは、次のような点にあるとすることができます。・論文数や分量に関してはほとんど規定がなく、多くても少なくても刊行できる。・費用が節約できる（読者も）。ウェブにアップされるので、だれもがどこにいても読むことができるので人の目に触れる機会が多くなる。・必要により臨時に刊行できる。・読者は読みたいところだけ印刷して手元におくことができる。

一方紙媒体に比べ、問題点もないわけではない。たとえば、ページをめくるという行為ができないので、全体を見渡して読みたいものを探したり、冊子を書棚に置き、ときどき手に取って眺めるなどということとはできない。これ以外にも慣れないための問題や物理的な問題が多々あるにちがいない。

しかし、ICCSは電子ジャーナルのいい点のみを考えて、その発刊を始めた。そして若手研究者の発掘や育成、熟成した鋭敏な、あるいは前衛的な研究成果を積極的に収録していきたい。今後も編集規程により、査読を通じた論文を数多く収録していきたいと考えている。皆様のご支援をお願いする次第である。

最後に、編集に当たり苦勞された編集委員会、とりわけ編集長である鈴木規夫先生の勞を多とし謝意を表するものである。